“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ１２－２３）

小さな群れ

カトリック美唄教会
２０２３年　５月　№312
２０２３年４月３０日発行

Fr.Narciso Cavazzola ofm

５月の新緑の美しい季節は、色とりどりの花々が咲き乱れる季節でもあります。 ヨーロッパでは、古くからこの美しい５月は、聖母にこそふさわしい月と見なされ、「聖母月」と呼ばれるようになったという説もあります． 各地の教会では、この聖母マリアをたたえるいろいろな行事が行われてきました。

５月の１月間、毎朝、教会でロザリオの祈りをささげたり、聖母マリアの歌を歌ったりして、５月 31 日は、その締めくくりとして、荘厳にマリア行列をする教会もあります。

キリストの救いのわざに協力した第一人者・聖母マリアへの崇敬は、初代教会からすでに始まっていました。マリアは人間でありながらも、神の特別な恵みを受けて救い主・キリストの母となるために選ばれたこの女性の姿は、神に対する心からの従順を示すものとして、またキリスト信者の生き方の模範として、さらには父なる神に取り次いでくれる助け主として特別に崇められてきました。

「神の母　聖マリア（1月１日)」「聖母の被昇天（８月１５日)「無原罪の聖マリア（１２月８日)」などマリアに関係のある祝日が次第に導入されるようになったこともその背景にあります。またルルド（ルルドの聖母の記念日、２月１１日）やファティマ（ファティマの聖母の記念日、５月１３日）をはじめ各地に聖母の出現が伝えられ、巡礼が行われるようになりました。

（参考：カトリック中央協議会）

2023 年 5 月　主日ミサ・平日のミサ予定

主任司祭　ナルチゾ神父

美唄教会　小さな群れ
2023 年　5 月　№312
2023 年　4 月 30 日発行

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時　間		
5	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
7	日	復活節第 5 主日	午前 11：00		
12	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
14	日	復活節第 6 主日	午前 11：00		ミサ後運営委員会
17	水		午後 6：00	ロザリオの祈り	
19	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
21	日	主の昇天	午前 11：00		
26	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
28	日	聖霊降臨の主日	美唄教会では ミサはありません	滝川教会 50 周年記念 ミサ午前 10：00 より	

《　平日のミサ　》　**金曜日のみ　午前 10：30**　5・12・19・26 日です
《 聖書を親しむ 》　平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）	清掃当番	花　当番
24 日　ソフイヤバラ　東　梢	第 2 週 河野 オオヤマ・レオニーラ 第 4 週 村田	大城

【お知らせ】
◎5 月（ロザリオの月）毎週日曜日、ロザリオの祈り 10：30 より行います
◎5 月 1 日（月）花輪作り 10：00 より
◎5 月 28 日（日）滝川教会 50 周年記念ミサ午前 10：00 より

【幼稚園】
◎30 日（火）お誕生会　聖堂にて

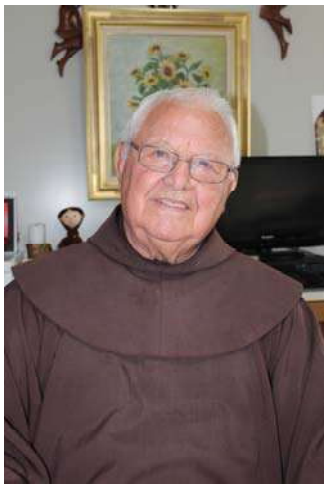
滝川カトリック教会の 50 周年記念

5 月はゴールデンウィーク、また今年は特に教会の 50 周年記念があり、ゴールデン・ジュビリーです。

私たちはこの 5 月にあたって、お休みという事よりも、この 50 周年をいかしてこの地方に少しでも祝福をもたらすこと、行事を通して励ましと平和の挨拶をみんなに向かって静かにできることを感謝いたします。

今振り返ってみると、この 50 年の間にいろいろなことがありました。教会の中にも、司祭の中にもたくさんの亡くなられた方がおりました。親戚や友人、恩人を記念しながら心から「ありがとう」を送りたいと思います。

これからも皆さんとともに神様の祝福を願っています。



ちょうどこの 28 日は 50 年前この教会が祝福を受けました。この場所で祈っている人、誰でもどんなことがあっても祝福されたものとして帰ることができるような祝福です。これからもこの場所を通して出入りする人々はもちろん、また彼らに出会う人々にキリストの平和、そして世界に正義と喜びがありますようと祈りながら、この 5 月を過ごしましょう。花はひとつの印です。自分のすべてを上に向かって開き、私たちも神に向かってまいりましょう。

マンフレード神父

黒い聖母

滝川教会の聖堂の右側の壁に、黒いマリア様のご像の入っている額があります。両手を左右に開かれて、苦しいときでも、悲しいときでも、嬉しいときでも、何時でもおいで、苦しみは慰めてあげます、悲しみは聴いてあげますよ、喜びは褒めてあげま

すと待っておられるようです。
•••これは、昔々、もう 90 年も前、滝川がまだ屯田時代の寒い冬の朝、或る農家の雪の畑の中でおきました。その頃は日露戦争が終わり世情は不安定の時でした。フランスから宣 教師としてこられて、旭川から滝川地方に布教されていたウッド神父様がその農家の青年 に洗礼を授けられたのです。
　この時代はキリスト教はまだ異端で、その青年は父親を激怒させ、息子は勘当されてしまいました。その後、年が経って父親は高齢になり、しぶしぶ息子と和解して同居するこ とになりました。そしてどうにか落ち着いた生活が続くかにみえました。ところが頑固な 父親にくらべ、優しく真面目な息子夫妻に好意をもっていた母親が、今度は受洗を希望するようになり、そのことを父親に洩らしました。
　平素、耶蘇をニガニガしく思っていた父親の驚きは、怒髪天を衝く知くでありました。 十字架、聖書、ご像等々関係するものはみな、破り捨て、斧で叩き潰し、踏み付け、とう とう火を付けて燃やしてしまい、そして息子や孫も再び追い出してしまいました。
…家を出る息子達…懐かしい畑には雪が残っていました。そのなかに打たれ、潰され、 焼かれた聖母の御像が黒く輝いていました。
※詳細は、「講話」の60. 日本に貢献した宣教師アルフレド.ウット神父を参照して下さい